

# 水 振 協 ニ ュ ー ス

(令和3年度号)

編集・発行 (公財) 滋賀県水産振興協会

草津市志那町柿根 1393-2

TEL 077 (568) 3451

FAX 077 (568) 3788

令和3年度の放流事業結果は・・・

- ・「ニゴロブナ 1,170.9万尾・ホンモロコ 204.3万尾・ゲンゴロウブナ 118.5万尾・ワタカ 2.0万尾」を放流！
- ・「人工河川 アユ親魚 12.0トンの放流」を実施！「26.6億尾のアユふ化仔魚」が琵琶湖へ流下！

## ニゴロブナ

6～7月の2cm稚魚の放流尾数は、水田育成が 1,007.3万尾(計画800万尾)、栽培漁業センター及び北山田地先筏(草津市)での生産放流が51.8万尾で、合計 1,059.1万尾でした。また、10～12月にかけて、平均体重19.5gの大型稚魚64.6万尾を栽培漁業センター、平均体重22.9gの大型稚魚33.9万尾を北山田地先筏で各々生産し、さらに滋賀県漁業協同組合連合会(県漁連)から平均体重22.2gの大型稚魚7.5万尾を購入し、合計で 106.0万尾(計画97.5万尾)を放流しました(放流内訳は南湖31.4万尾、北湖74.6万尾)。その他に、県漁連では10月に平均体重19.6gの大型稚魚13.6万尾を独自事業として北湖へ放流されました。

**水田育成** 主に沿湖漁業協同組合の御協力により実施し、570.5反の水田にふ化仔魚(卵からのふ化仔魚換算を含む)で 2,405.2万尾を放養し、約1か月後の中干時に2～3cmの稚魚 1,007.3万尾を琵琶湖に放流しました(放流内訳は南湖116.3万尾、北湖891.0万尾)。なお、水田からの稚魚の流下率(流下尾数/放養尾数)は約42%でした。

さらに、赤野井湾及び津田江湾周辺の水田(守山市、草津市)53.0反にふ化仔魚 216.2万尾(計画200万尾)を放養し、約1か月後の中干時に2～3cmの稚魚 46.5万尾を琵琶湖に放流しました。

**放流効果** 当協会では種苗放流の事業効果を知るために、令和4年2～3月の今冬季に、北湖において小糸網で漁獲されたニゴロブナの標識調査を行っています。今冬季の放流魚の混獲率(漁獲魚に占める放流魚の割合)は調査中ですが、令和3年2～3月(冬季)の放流魚の混獲率は 29.9%(前年は 46.4%)で(北湖での漁獲物752尾調査)、前年よりも低い結果となり、逆に天然魚の占める割合が高くなりました。それら放流魚のうち、水田放流の稚魚と沖合及び沿岸に放流した大型稚魚の混獲率の内訳は、各々 8.0%と 21.9%でした。また、令和3年3～6月の南湖における放流魚の混獲率(調査尾数303尾)は、64.3%(内訳は水田放流の稚魚が 15.0%、大型稚魚が 49.3%)で、例年と同様、北湖よりも放流魚の割合が高い結果となりま

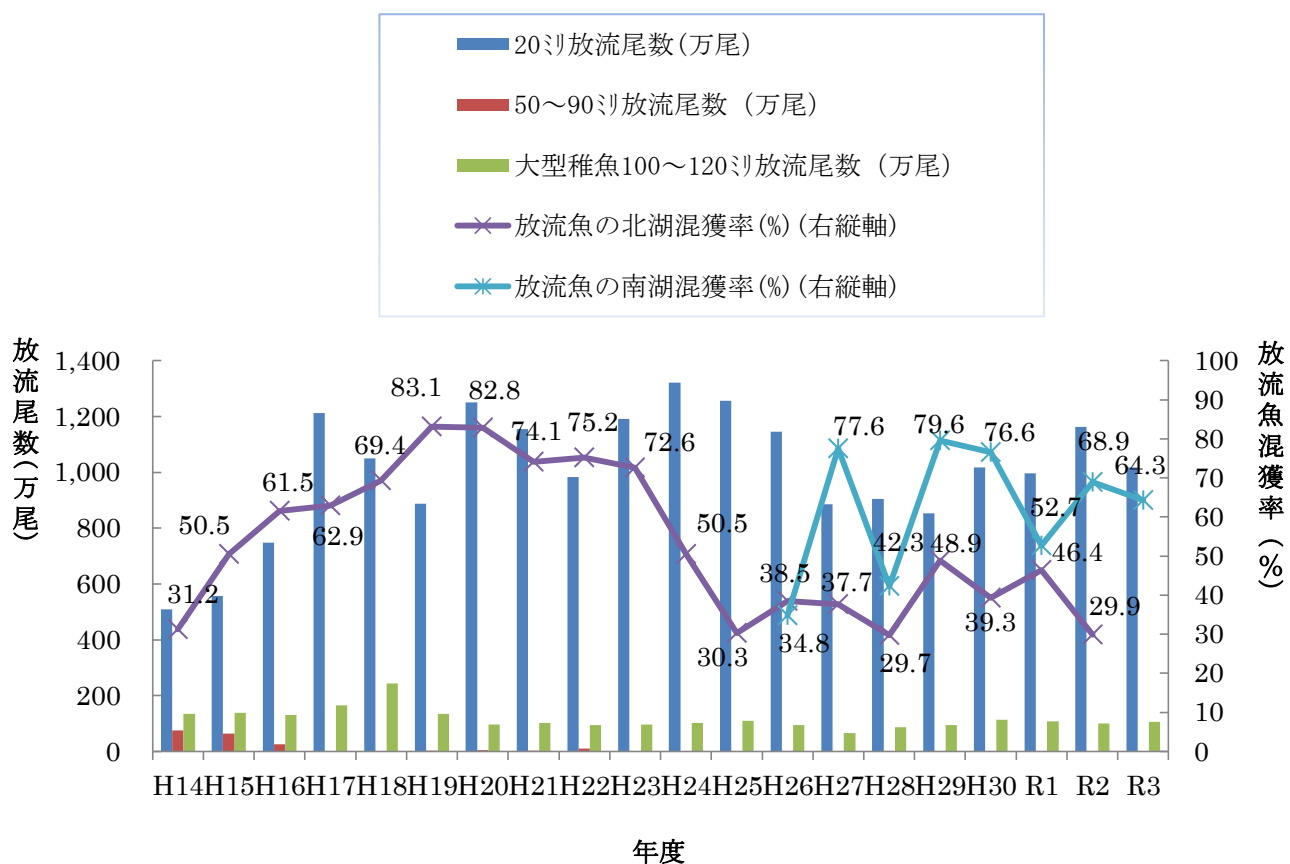
した。なお、平成 26 年度～令和 2 年度まで、南湖の放流魚の混獲率は、34.8%～79.6%の間で推移し、7 か年のその混獲率の平均値は 61.8%でした。



ニゴロブナ大型稚魚の放流(北湖、水試琵琶湖丸より放流)



ニゴロブナ漁獲物の標識調査



ニゴロブナの年度別放流尾数(万尾)及び放流魚混獲率(%)の推移

## ホンモロコ

**水田育成** 赤野井湾及び津田江湾周辺の水田(守山市、草津市)56.0 反にふ化仔魚 205.0 万尾 (計画 200 万尾) を放養し、約 1 か月後の中干時に 2~3 cm の稚魚 41.3 万尾を琵琶湖に放流しました。

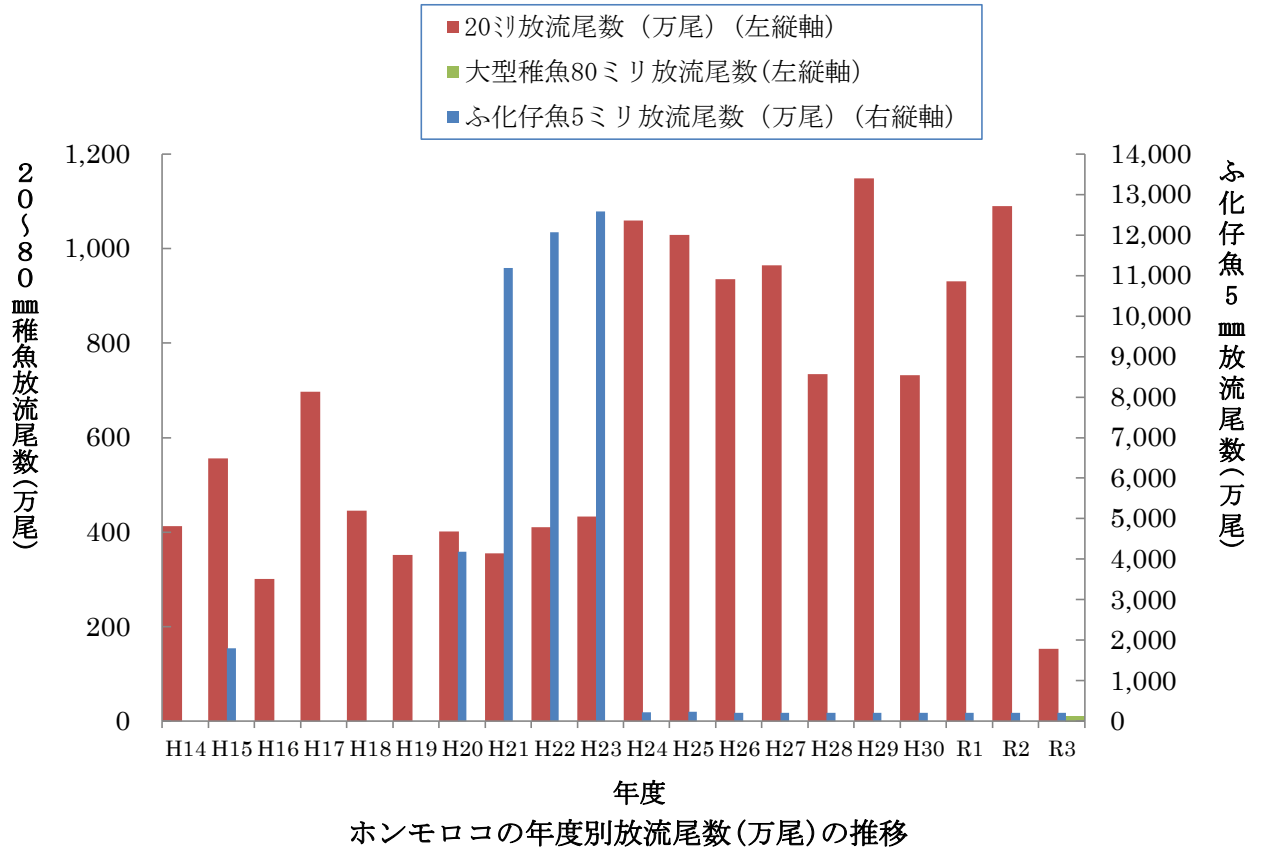
**北山田筏施設** 本年度から北山田筏施設においても、約 8 cm の大型稚魚を生産し、10 月に 10.5 万尾(計画 10 万尾)を北湖へ放流しました。



水田で2~3cmに育ったホンモロコ稚魚



北湖へ放流するため北山田筏施設で生産したホンモロコ大型稚魚(約8cm)の琵琶湖丸(水試)への積み替え作業



## ゲンゴロウブナ

栽培漁業センターにおいても、ゲンゴロウブナ約 8 cmの稚魚 7.9 万尾を生産し、南湖に放流しました。



ゲンゴロウブナ稚魚の放流



栽培漁業センター飼育池放流前取上検量

## ワタカ

栽培漁業センターにおいて、生産した約 4 cmのワタカ稚魚 2.0 万尾(計画 1.5 万尾)を主に南湖に放流しました。

また、南湖で漁獲されたワタカ 210 尾について標識調査を行い、その結果、放流魚が 76.6%(前年は 84.0%)を占めていることがわかりました。このことから、南湖においては、例年と同様、天然のワタカ資源が非常に少ないことがわかります。



ワタカ漁獲物の標識調査



ワタカ稚魚(栽培漁業センター飼育池放流前取上検量時)

## アユ (人工河川管理運用事業)

令和 3 年度は、早期放流用の養成親魚として、8 月 26 日～9 月 1 日にかけて親アユ 8,000 kg、231,800 尾を安曇川人工河川へ通常放流しました。また、姉川人工河川へは、9 月 3 日

～4日にかけて姉川河口のヤナで特別採捕した天然親アユ 4,009 kg、406,600尾を放流しました。それら放流親魚の産卵ふ化の結果、9月3日～10月23日にかけて合計で26.6億尾(前年は25.1億尾)のふ化仔魚を琵琶湖へ流下させました。また、9月6日には県の指定により田川上流域(長浜市)へ同じく天然親アユ 807 kg、101,900尾を放流しました。



養成親魚の放流(安曇川人工河川) 特採天然親魚の放流(姉川人工河川) 特採天然親魚の放流(田川)

### 「LOVE BLUE 事業」による種苗放流(令和2年度から新規事業)

令和3年度も昨年度に引き続き、一般社団法人 日本釣用品工業会が実施する水辺の環境保全を目指した社会貢献事業である「LOVE BLUE 事業」と当協会が連携して、漁業だけでなく釣りの対象でもあるホンモロコ、ゲンゴロウブナについて、以下のとおり水田育成による種苗放流事業を行いました。

**ホンモロコ** 南湖周辺(草津市及び大津市)の水田 111.0反に、ふ化仔魚で 400万尾を放養し、約1か月後の中干し時に2～3cmの稚魚 152.5万尾を草津市下寺町地先や大津市雄琴地先などの水域に放流しました。

**ゲンゴロウブナ** 近江八幡市(西の湖)、高島市及び長浜市の水田の計 70.8反に、ふ化仔魚で 250万尾を放養し、約1か月後の中干し時に2～3cmの稚魚 110.6万尾を西の湖、高島市新旭町地先及び長浜市早崎町地先などの水域に放流しました。



ゲンゴロウブナふ化仔魚(約5mm)



水田で2～3cmに育ったゲンゴロウブナ稚魚

最後になりましたが、県水産課、県水産試験場及び各関係漁業組合の各位に対しまして、種苗生産、放流及び標識調査にご協力頂きありがとうございました。